



平成17年度

## 進路講演会

### ◆第3回進路講演会 1・2年生および3年生(希望者)・職員・保護者対象



1. 日時 平成18年3月16日(木) 14:30~16:10
2. 講師 金田一秀穂氏(国語学者)
3. 演題 「世界一受けたい授業～おもしろ日本語～」
4. 講師プロフィール

1953年東京生まれ。祖父の金田一京助(言語学者)、父の金田一春彦(国語学者)に続き、日本語研究を専門とする。上智大学心理学科卒業後、東京外国語大学大学院日本語学専攻を修了。1994年、ハーバード大学客員研究員を経て、現在は杏林大学外国語学部教授。独特のキャラクターでテレビ出演も多く、「世界一受けたい授業」(日本テレビ)では、『金田一先生の辞典簿』など、お茶の間でも親しまれている。講演では「日本語の楽しみ方」など、言葉にまつわる興味深い内容が好評。「知っていますか? つい間違える日本語」(大和書房)など著書多数。

#### 5. 講演要旨

『シミュレーション』じゃなくて『シミュレーション』、『うる覚え』ではなくて『うろ覚え』が正しいのですが、私はどちらでもいいと思っています。言葉は常に変化していくものですから「正しい言葉」とははっきり言えるものは滅多にありません。現に『間違う』は『間違える』という新しい表現が出てきてから多くの人が後者を使用するので今では両方とも正しいとされているのです。皆が日本語を正確に使ってませんが誰も困っていません。実は日本語は単純の言葉ほど難しいのです。「1日おき」という言葉があります。「1日」は「24時間」です。今日(16日)を基準に考えると、「1日おき」は18日ですが「24時間おき」は17日となります。なぜでしょう? 「3日おき」はいつになりますか? 「福岡に行きました。1日いました。そして帰って来ました。」帰ったのは当日ですか、翌日ですか? 日にちを間隔で考える時と距離で考える時で答えはそれぞれ違います。でも私たちはそんなに困らずに生活し

ています。言葉の意味は「どう考え、感じるか」で変わります。そこが言葉の不思議なところであり、面白いところです。人の心理的状况によって受け取る意味が大きく変わる言葉をきちんと伝えるのはとても難しいのです。「国語力」とは自分の考えを相手に「伝える力」なのです。世の中の情報の多くが間違っただけです。皆が言うから自分も何の疑問も持たずになんとなくそうだと思っている人が実に多いのです。若い人は情報に騙されないように一旦は疑い否定して、そして考えて下さい。

◆進路講演会(外務省高校講座) 平成17年9月30日(金) 1~3年生・職員対象

演題:「国際情勢～外交官の仕事」

講師:外務省国際社会協力部人権人道事務官 石田達識(いしだたつり)氏



第2回進路講演会が外務省より石田達識氏をお迎えして行われました。まず、外交官の仕事として、①相手国政府との交渉 ②政治、経済の分析 ③友好関係の促進 ④相手国への広報活動 ⑤在留日本人の安全の確保などをあげられ、さらにこれまで勤務された国々での数々のエピソードや、外交官としてのさまざまな取り組みをたくさんの写真を使って紹介して下さいました。現役の外交官のお話とあって、生徒たちは真剣な面持ちで聞き入っていました。

石田氏は1994年に外務省入省。1995年から2年間にフランス日本大使館に勤務されるかわらフランス語の研修を積まれましたが、その間に開催されたG7サ

ミットなどの国際会議での舞台裏の様子を語って下さいました。首脳会談をひかえての事務レベルでの話し合い、会議の合間を縫って会談を持つためのスケジュールの調整など、表面からは見えないところでの苦労話などを、生徒はとても興味深く聞いていたようです。

1997年からはアフリカ西岸にあるコートジボワールの大使館に勤務され、ブルキナファソなどの近隣4カ国もカバーしつつ、農業発展や医療の改良、教育の充実をめざしてこられました。特に、現地の小学校建設にあたっては、みずからヘルメットをかぶって現地入りされたそうです。少ない資源で大きな経済発展をとげた日本はこれらの国々の良きお手本になっていることも初めて学びました。

モンリオール日本国総領事館在任中に起きた、9月11日の同時多発テロの際には、アメリカ空港が閉鎖されたため飛行機がトロントに着陸し、日本人乗客への対応に追われたことや、同僚の職員の方がニューヨークへ応援出張されビル近辺の在日日本人の安全確認をなさったお話などをされました。

講演の最後に行われた生徒とのQ&Aで「外国にいて、日本を感じる時は？」の質問に、「外国でというより、日本に帰ってきたとき、生活がとても安全なことにホッとします。外国では物を一分でもおきっぱなしにすると、ほぼ確実になくなりますから。」と答えておられました。また、「外交官になるために必要なものは？」の質問に、「時として、24時間かけまわれる体力と、英語などの語学力、地元の人に溶け込めるように何かひとつ得意なものを持つこと」というアドバイスをいただきました。その道をめざしている生徒には参考になったことと思います。最後に石田さんは外交官の仕事をまとめて

Travel / Ambassador / Meeting / Agreement / Network / Active  
(旅行) (外交官) (会議) (同意) (ネットワーク)(活動的)  
でTAMANA おみごとでした!!!

◆進路講演会 平成17年6月20日(月) 1~3年生・保護者・職員対象



平成17年度進路講演会「君の頭に発想の泉を掘り起こせ」秋山 仁 氏

数学者の秋山仁先生を講師にお迎えして進路講演会が開かれた。保護者の関心も高く、220名以上の方に参加していただいた。見事に工夫された様々な教材を使って、数学の不思議さ、面白さを示し、生徒達に、一度しかない自分の人生だから、好きなことやりたいことに挑戦し、努力し続けようと呼びかけられた。先生自身そのようにしてマスターされたアコーディオンを演奏しながら、シャンソンを披露されるなど実証的で、説得力のある内容であった。最後に、生徒達が自分のやりたいことをみつけるために、「高校生に送る10カ条」で講演を締めくくられた。

(要旨)

人生は一度しかない。自分の人生は自分の意志と行動力で築き上げるものだ。多くのことに積極的に挑戦し自分で自分の人生を切り開こう。自分が本当に好きなこと、やりたいことに取り組もう。楽なことだけでなく、難しいことに挑戦し、苦しいこときついことに耐えることが大切だ。

私の場合、数学の先生との出会いから4色問題に取り組んだ。ミシガン大学の教授に自分で手紙を送り、結果的に世界各国の大学で研究を発表する機会を得た。

数学は積み重ねの学問である。定理や公式を覚えるのではなく、その公式が生まれた背景を知りその原理を考える。そして創意工夫して実際に試す。例えば、なぜ「ふろしき」は正方形か。ひし形の多面体の体積の公式は？など。実際に正〇角形を作り、その容積を調べると、正方形は無限の可能性を持つ素晴らしい特性を備えていることがわかる。また、ひし形の多面体を、体積を求めやすい形に変えてみると、実際にその原理を目にし、納得できる。

努力することが必要だ。努力なしで成功するのが最もよくない。努力することで無限の可能性が広がる。才能は努力と共についてくる。好きなこと、やりたいものがあれば努力し続けることができる。私はアコーディオンの練習を100日続け、楽しめるようになった。数学も同じで毎日継続したらできるようになる。

出来ないことの責任を他に転嫁してはいけない。自己責任を自覚しよう。

知識を持つことも時には必要だが、アイデアがこんこんと湧き出てくるような発想の泉こそ大切である。好きなこと、やりたいことを見つけるために次のことを実践しよう。

「高校生に送る10カ条」

1. でかい志を立てよ。でかい夢を持て。
2. 大いに読書しよう。
3. 感動を求め、映画、コンサート、展覧会にどんでんかけてみよう。
4. 広い大海に向け帆を張り、自分探しの旅に出よう。
5. 外国語をマスターしよう。
6. 健全な体に健全な精神は宿る。体を鍛えよう。
7. 失敗を恐れず、屈辱を味わおう。
8. 自立自活せよ。
9. 創作活動に従事しよう。詩、絵、文、ゲームなど創造的な活動を。
10. 良き師、良き友と交われ。